

**製品名: GNG4 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11557**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	GNG4 GNGT4
別名	Guanine nucleotide-binding protein G(I)/G(S)/G(O) subunit gamma-4
遺伝子 ID	2786.0
SwissProt ID	P50150
免疫原	ヒト GNG4 由来の合成ペプチド AA 範囲: 1-50

**背景**

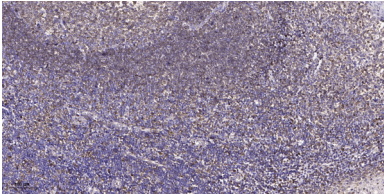
機能: グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (G タンパク質) は、様々な膜貫通シグナル伝達系において、調節因子またはトランスデューサーとして関与しています。β鎖とγ鎖は、GTPase 活性、GDP から GTP への置換、および G タンパク質とエフェクターの相

相互作用に必要です。類似性: Gタンパク質 $\gamma$ ファミリーに属します。サブユニット: Gタンパク質は、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ の3つのユニットで構成されています。 $\beta 1$  および  $\beta 2$  と相互作用しますが、 $\beta 3$  とは相互作用しません。組織特異性: 脳、腎臓、膵臓、骨格筋、そして心筋にもわずかに存在します。機能: グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (Gタンパク質) は、様々な膜貫通シグナル伝達系において、調節因子またはトランスデューサーとして関与しています。 $\beta$ 鎖と $\gamma$ 鎖は、GTPase活性、GDPからGTPへの置換、そしてGタンパク質とエフェクターの相互作用に必須である。類似性: Gタンパク質 $\gamma$ ファミリーに属する。サブユニット: Gタンパク質は、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ の3つのユニットから構成される。 $\beta 1$  および  $\beta 2$  と相互作用するが、 $\beta 3$  とは相互作用しない。組織特異性: 脳、腎臓、膵臓、骨格筋、そして心筋にもわずかに相互作用する。

## 研究分野

-

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。